



新市地域らしさ価値3 (ブランディング価値)

世代がつながる安住都市

—未来人を育む資源博物館・新ながおか—

第2部で紹介した具体化方針、「知をつくる人材育成と高福祉・教育環境などによる「住みやすい」地域であること」に基づく「新市地域らしさ価値(ブランディング価値)」として策定したのが、『世代がつながる安住都市～未来人を育む資源博物館・新ながおか～』です。

ここには、市民と行政が一体となって、高齢者から子どもまで、全ての世代が「住みやすさ」「育ちやすさ」を実感できる都市づくりを進めていこうという思いが込められています。

具体化方針に基づく調査結果の整理

Want



-期待・希望・ありたい姿-

- ・高福祉のまち (子ども・高齢者)
- ・豊富な自然を活かしたフィールドミュージアムづくり
- ・自然環境保全と都市機能充実
- ・チャレンジ精神のある地域パーソナリティ
- ・地区の自立と相互の助け合い
- ・高齢者が元気になるまち
- ・住民主導・行政による支援

ありたい姿

Will



-実現すべき事柄-

- ・楽しく期待をもって子育てができるまち
- ・元気で長生きのできる暮らしを支える環境と高福祉サービスの充実
- ・老若が共働するまちづくり
- ・すべての世代が共働するまちづくり
- ・市民が主役への意識改革
- ・山のみどり(癒し)と生活のみどり(うるおい)が調和したまちづくり
- ・独自の魅力を増進する
- ・地下資源の有効な活用
- ・安心・安全に住めるまち
- ・高い交通利便性を活かしたまち
- ・住環境の一環として自然の保全が位置付けられるまち
- ・癒しのまち
- ・美しい河川、森林を次世代に残す
- ・豊かな自然の保全と積極的な活用
- ・身近な自然がうれしいまちづくり
- ・10年先を見据えた人材づくり
- ・グローバルな中に、伝統的な教えも大切にすまち
- ・多様性を許容する小単位コミュニティ
- ・身近なコミュニティ拠点の整備
- ・小コミュニティのネットワークがつながり交流するしかけをつくるまち
- ・行政と住民の役割分担
- ・個を大切にしつつ効率的な行財政運営の実現
- ・官民協力の時代にあった斬新な行政サービスの展開
- ・元気そしておおらか
- ・多くの分野、機関が連携するネットワークの構築
- ・伝統に根ざし各地域が調和する

強み

Can



-現状の強み-

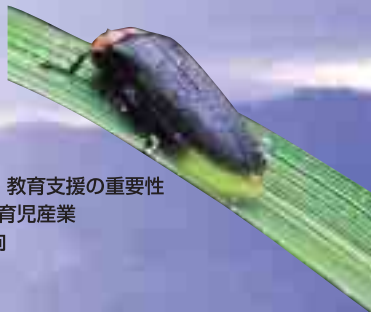
- ・豊かな自然と都市基盤
- ・教育的環境・人材が育つ風土
- ・協調性があり、人情に厚い地域パーソナリティ
- ・元気な高齢者・優れた人材
- ・住民の自主的な動き



「新市地域らしさ価値(ブランディング価値)」は、地域の多くの人々の
<まちの将来に対する声・思い>や<地域の強み>から導き出された、未来に向けて共有し、
高めていくべき価値といえます。

社会的背景・環境

- 急速な高齢化の中での老人福祉の重要性の増大
- 中高年世代の最大の不安要因は、老後の保障
- 少子化の中での出産・子育て支援の重要性の増大
- 次世代を担う育児・教育への関心の高まり
- 男女共同参画社会の実現、女性の社会進出における育児・教育支援の重要性
- 経済・雇用を拡大する21世紀型生活産業としての福祉・育児産業
- 雇用とともに福祉・教育環境を重視する定住地の選択傾向
(Uターン、セカンドライフ移住など)



新市地域らしさ価値3 (ブランディング価値)

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

高速交通網の整備により首都圏へは至近な時間距離にありながら、信濃川の水系と東山や西山の山地で構成される長岡地域は、利便性、機能性と同時に水や緑の資源が豊かで、健全な生活環境を身上とした都市である。この生活環境と同時に「人材育成」の環境と実績から、高齢者や子ども(未来人=未来を生きる人)などの過去と未来の歴史をつなぐ人々にとっての「住みやすさ」「育ちやすさ」を志向することによって、世代がつながる安定と安らぎ住まい都市を発信する。

<行動や姿勢>

行政・市民が一体となって子育て支援や高齢者福祉を推進し、「住みやすさの代表地域」としての新市を発信する。

生活の背景となる川や森林を守り育てることで「住みやすさ」の恒久化を図る。

子どもを育むための、様々な体験を生み出す地域資源の多様さ(資源博物館)を活用した、「自分が育つ」地域づくりを志向する。